



令和6年 飛翔 二十歳を祝う会

223人の新たな門出を祝う

1月7日（日）、令和6年「飛翔 二十歳を祝う会」が中央公民館で開催されました。平成15年4月2日から平成16年4月1日生まれの223名が対象となり、式には172名が出席し、仲間との再会を喜ぶとともに新たな門出を祝いました。

式では、新成人を代表して田宮天志さんが二十歳の誓いを述べました。



実行委員の紹介（五十音順・敬称略）

岩崎 美咲	大場 未夢	緒方 麻衣
黒川 宗真	重岡 紬杏	清水 亮汰
須網 奏太	田宮 天志	泊 佑成
西川あのん	蜂須賀弘有	藤井 凜

二十歳の誓い



新成人代表 田宮 天志さん

本日は、二十歳を迎えた私たちの門出に際し、このような盛大な会を開催していただき、誠にありがとうございます。二十歳を迎えた節目の式で、私は「人生」についての私なりの主張をさせていただきます。

みなさんも夢や目標、将来について考えたことがあると思います。私は特に目標もなく過ごしていた大学一年生の冬に、SNSでダルビッシュ有さんの次のような話を拝見しました。

「19歳の時、試合に負けては言い訳を繰り返して、このままでは1軍半や2軍選手で終わると危機感に苛まれていました。そこで、40歳でリストラされ無職になった絶望的な自分を想像しました。そこに神様が現れて、『1回だけチャンスあげるから、20歳の時に戻ってもいいよ』と言われ、過去に戻ってきた、ここでやらなければまた同じだぞ、という設定で生きることになりました。40歳から20歳に戻ってきたら誰でも努力するじゃないですか」と。

そこからダルビッシュ有さんは、想像した絶望的な40歳にならないよう心を入れ替えて取り組み、チームを日本一に導きました。

私は、「今の私たちと似た歳でこんなに素晴らしい行動力と想像力をもっている人があるのか。一流のプレイヤーは技術だけでなく、考え方が違うんだ」と気づかされたことを鮮明に覚えています。

今、チャンスを貰って20歳に戻ってきているとしたらどうでしょうか。そこで私は悔いがないよう、大学受験によって諦めかけていた夢をもう一度追いかけることにしました。その夢は「プロ野球選手」です。誰も夢や目標があると思いますが、夢は掲げるだけではないつもりです、近づいていくこともありません。自分の手で掴みにいくものです。

私は今この場で夢を語ったことで、後戻りできない大きな責任感を背負いました。同時に夢の実現に一步進んだと感じています。誰も一歩を踏み出すのは難しいと思いますが、「言葉」という言葉があるように、思いを口にすることで何かの力が味方し、夢に近づき始めるかもしれません。

みなさんも後戻りできず、明日生きているかもわからない人生で、後悔しないためにも、「人生」について考えてみてはどうでしょうか。

最後に、私たちを支えてくれる家族や、教え導き、成長を見守ってくれた先輩先生方、共に高め合ってきた仲間たち、そして、この会に尽力賜りました全ての方々に、今一度感謝の言葉を申し上げ、二十歳の誓いとさせていただきます。